

6月12日 第313回 DVD映画鑑賞「コスタリカの奇跡」 26名

今回は、テーマの魅力からか、新参加者が6名。その中に若いストリートミュージシャンの姿もありました。サロンの初めに、歌を披露していただき、一挙に場がなごみました。

3000万署名をすすめる中で、「憲法に自衛隊明記することは国を守るために必要なのでは？」という声をよく聞きます。この映画「コスタリカの奇跡」は、そんな疑問に明快に答えてくれました。

コスタリカは、北米と南米の中間に位置し、面積は九州と四国を合わせたくらいの小さい国。アメリカの圧力と内戦や紛争が絶えない地域にありながら、1948年に軍隊を持たないことを憲法で決め、積極的平和国家を国際社会に発信し続けています。

軍事予算はゼロとなり、その分人々の暮らしにお金を回してきました。教育は無償となり、国民皆保険制度によって寿命も80歳に伸びました。環境保護や温室効果ガス対策などにも積極的に取り組んだ結果、「地球幸福度指数」2016年では、世界1位になりました。

軍隊撤廃後もアメリカからの軍事化への圧力や、隣国ニカラグアとの緊張の高まりなど、幾度となく危機が起こります。そのたびに国際法や国際機関に頼り、再軍備の動きに対して国民が国際司法裁判所に訴えるなど、国民の圧倒的な意思で非武装を貫いてきました。こうした経験をもとに、「国の安全を保障するものは、軍備ではなく国際的な法の枠組み」だと、憲法学者が自信をもって語ります。国際機関や国際法へのゆるぎない信頼、諸国との友好関係を保つことで国を守る、敵をつくらぬ外交モデルを築いてきたのです。国連で採択された核兵器禁止条約では、その案文をまとめた議長がコスタリカ出身のエレン・ホワイต์大使だったことは、記憶に新しいところです。

その一方で、グローバル化や新自由主義の影響で外国資本が流入し、経済格差が生まれているのも事実。町にはホームレス、暴動、麻薬・・・これらの課題を乗り越えるべく、「人を大切にする政治を」と掲げた大統領と、不平等と腐敗に立ち向かう人々の決意があふれています。

DVDの視聴後、全員が感想を述べ合いました。

「今までコスタリカがどこにあるのかもよく知らなかった。是非この映画を多くの人に見てもらいたい」「学校で平和主義をしっかりと教え、国民が非武装の憲法を圧倒的に支持しているところがすごい」「平和主義を自分の国だけではなく、他の国にも積極的に働きかけて効果をあげているところがすばらしい」「日本はこのような小国でありながら大戦後戦争をせずにきたのを誇らしく思った」「日本の憲法9条の条文が世界中で20の碑に刻まれ、目標とされている。私たちも9条の精神を生かそうという強い意志をもちたい」等々。

参加者は、是非地域の九条の会でもこの映画を見る会を企画したいと言いながら帰宅の途につきました。DVD上映時間は90分です。